

フェアプレー ベストサポーター

1, フェアプレーとは

ルールを正確に理解し、守る

フェアプレーの基本はルールをしっかりと知った上で、それを守ろうと努力することである。

ルールの精神:安全・公平・喜び

ルールは、自分も他人もけがをしないで安全にプレーできること、両チーム、選手に公平であること、みんなが楽しくプレーできることを意図して作られているのである。

レフェリーに敬意を払う

審判は両チームがルールに従って公平に競技ができるために頼んだ人である。人間である以上ミスもするだろうが、最終判断を任せられた人なのだから、審判を信頼し、その判断を尊重しなければならない。

相手に敬意を払う

相手チームの選手は「敵」ではない。サッカーを楽しむ大切な「仲間」である。仲間へのけがをさせるようなプレーは絶対にしてはならないことである。

2, JFAサッカー行動規範

最善の努力

どんな状況でも、勝利のため、またひとつのゴールのために、最後まで全力を尽してプレーする。

フェアプレー

フェアプレーの精神を理解し、あらゆる面でフェアな行動を心がける。

ルールの遵守

ルールを守り、ルールの精神に従って行動する。

相手の尊重

対戦チームのプレーヤーや、レフェリーなどにも、友情と尊敬をもって接する。

勝敗の受容

勝利のときに憤りを忘れず、また敗戦も、誇りある態度で受け入れる。

仲間の拡大

サッカーの仲間を増やすことに努める。

環境の改善

サッカーの環境をより良いものとするために努力する。

責任ある行動

社会の一員として、責任ある態度と行動をとる。

健全な経済感覚

あらゆる面で健全な経済感覚のもとに行動する。

社会悪との戦い

薬物の乱用・差別などのスポーツの健全な発展を脅かす社会悪に対し、断固として戦う。

感謝と喜び

常に感謝と喜びの気持ちをもってサッカーに関わる。

3, グリーンカード制度

JFA は、U-12(4種)年代以下の試合において、グリーンカードの積極的活用を奨励しています。

サッカーは人生の学校です。この素晴らしいゲームは、楽しいばかりでなく、感情を呼び起こすものです。

負けた時には悲しみと涙、勝ったときには喜びと祝祭。サッカーは教師です。サッカーは少年少女に人生の徳と価値を学ぶ機会を与えます。

チームとしてともに努力すること

フィールド上で互いに助け合うこと

常にフェアプレーを示すこと

良いスポーツマンシップを示すこと

怪我をした者を助け共感を示すこと

敗者も勝者も称えること

対戦相手、チームオフィシャル、レフェリーに敬意を払うこと

グリーンカードの意味は以下の通りです。
それは良い行動である。その調子で続けなさい。
ポジティブな行動を再確認、再強化する。
ポジティブな教育である。
認め、感謝し、もっとやるよう励ます。
他の人が見本とすべき手本である。
ファンやオフィシャルもあなたの行動を認め評価している。

グリーンカードは以下のような行為に対してに提示されます。
怪我をした選手への思いやり
意図していないファウルプレーの際の謝罪や握手
自己申告(ボールが境界線を出たとき:スローイン、CK、GK、ゴール)
問題となる行動を起こしそうな味方選手を制止する行為
警告も退場も受けず、ポジティブな態度を示す。
(レフェリーは試合終了の笛を吹く際に、チームベンチに向かってカードを提示する)

4, ベストサポーター(抜粋)

サッカーは子どもを大人にし、大人を紳士にする
自立の第一歩
子どもなりに、自分で必要だと思うことを自分でやるのが大事。
クラブへ協力
子どものサポートであることを忘れずに
スポーツ・サッカー大好き子を育てよう
子ども自身の夢
あなたの夢ではありません。
ゆっくり見守りましょう
子どもたちはサッカーが楽しく、大好きです。
サッカーと学校や生活のバランス
さまざまな仲間とのさまざまな経験が幅を広げます。
トライ&エラー
勝ち負け以外に大切なことがあります。
みんな大切なサッカーの仲間です
クラブの考えを聞いてみて
信頼関係があれば解決できることがたくさんあります。
みんな大切な仲間
サッカーに「敵」はいません。
サッカーを知っているお父さんへ
余裕をもってやさしい気持ちで見守ってください。
レフェリーの判定を尊重しましょう
子どものときにこそフェアプレーを伝えたい。
「 の子ども」
その子はその子自身です。
いつでもどこでも常に子どもをサポート
根本的な部分へのアプローチ
サッカーの練習だけでは変わらないこと

めざせ、ベストサポーター！
子どものために良かれと思うその気持ちが最適な方向になるために。

こんなクラブ、こんな指導者に出会っていますか？

クラブ

- 01 クラブの指導理念がしっかりとしている
- 02 クラブの指導方針をもっている
- 03 クラブ運営の基本がプレーヤーズファースト※1である
- 04 クラブ・保護者・選手との間でコミュニケーションがとれている
- 05 子どもたちが楽しくプレーできる場がある
- 06 指導者間での考え方が一致している

※1 プレーヤーを第一に考えること

コーチ

- 01 子どもが好き
- 02 情熱がある（研究熱心・向上心）
- 03 明るくさわやか（言葉づかい・服装・礼儀正しい・あいさつ）
- 04 忍耐力がある（指導には時間がかかる）
- 05 子どもレベルに自分をコントロールできる
- 06 モラルがある
- 07 デモンストレーション（実際にやってみせること）ができる
- 08 オープンマインド※2である

※2 心を開いて人の意見を聞き入れられること

選手はコーチの鏡です。

キッズゾーン 大人立ち入り禁止！

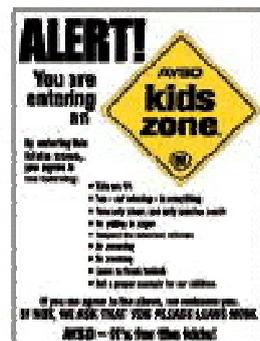
アメリカ キッズゾーン

アメリカには、ユース関連の加盟団体が複数存在しますが、その中のひとつがAmerican Youth Soccer Organization(AYSO)です。AYSOでは、「キッズゾーン」と呼ばれるプログラムを展開しています。これは、近年、ユーススポーツに関わるプレーヤーやコーチ、親のネガティブな行動、暴力行動がメディアに採り上げられることが増えてきたことを受けて、この傾向に歯止めをかけるために開始されたプログラムです。

「キッズゾーン」は、サイドライン上のネガティブな行動を排除することを目的とし、図のようなサインやバッジを使ってキャンペーンを行っています。図のサインには、「注意！あなたはキッズゾーンに立ち入ろうとしています」とあります。

以下の注意書きに従うのであればウェルカム、従えないのであれば、お引取り願いたい、という内容になっています。

- ・キッズが NC.1
- ・勝つことでなく楽しみがすべて
- ・ファンは応援するのみ。コーチはコーチに任せる
- ・怒りにまかせてどならない
- ・ボランティアのレフェリーを尊重する
- ・ののしらない
- ・禁煙
- ・隔りにゴミを残さない
- ・子どもによい見本となる



大人のための誓約書や行動規範、また、指導やサポートのためのさまざまな情報が用意されています。

AYSOでは、U-6のゲームのガイドラインには、「順位を記録しないこと、結果を記録しないこと」と明記されています。また、各試合のはじめと終わりに、プレーヤーだけでなく、コーチ、親も握手をすること、とされています。JFAのガイドラインでも、この考え方を採用しています。

● 大人の方へ ●

今日は僕たちの一日です。

01 僕たちはサッカーを思う存分にやろうと喜んでここに来ています。

02 もちろん誰でも勝ちたいに決まっています。

でも一番大切なことはプレイができるということなのです。

だから、どうか僕たちの思うようにプレイさせてください。

01 ピッチのそばで怒鳴らないで、相手チームや彼らのサポーターに対してもフェアでいてください。

02 ミスプレイをいちいちなじらないでください。僕たちはしょんぼりするだけで、何の役にもたたないですから。

03 同じ時間を練習していれば、同じ時間だけ試合に出れるチャンスがあります。

以上、よろしくご理解ください。

※ スイスサッカー協会 の少年サッカーより
以上、よろしくご理解ください。

子ども一同